ニューヨーク補習授業校だより

平成２７年度　第８号
校 長　　青木　正彦

第25回作文コンクール最優秀作品の中から、高等部2年の前田花帆さんの作品をご紹介します。
衝撃的と思える程の力強い主張で作文は始まります。分かれているけれども、どちらも大事という複雑で難しい気持を、「繋がれている」と表現した力は、驚嘆に値します。全体は、アメリカ史の授業で感じた気持ちを素直に綴っています。戸惑い、悔しさ、批判、願いは、すべて冒頭で主張した「気付き」から来ています。心地よい程の見事な構成力と文章力です。
そして何よりも、作文の内容に、心打たれます。現地校と補習校に通い、アメリカの文化と日本の文化の両方に身をおいて生活しているからこそ、学ぶことのできた大切な力に、感動します。これからの来るべき未来社会のリーダーは、まさに「世界の生徒」の中から生まれるでしょう。

「 世界の生徒になりたい」

私の人生は二つの国の間で分かれている。私の心は二つの国に繋がれている。けれど、ここでそれについて文句を言うつもりはない。この人生のおかげで、私は一つ以上の視点から物事を見る事の大切さに気付くことができた。

去年、現地校のアメリカ史のクラスで第二次世界大戦の事を学習した時、私は微妙な立場になってしまった。パールハーバーでの日本の残酷さについて習った。負ける事を避けられるわけがないのに、先生は、負けを受け入れる事が出来なかった日本の話をした。けれど、広島と長崎でのアメリカの残忍さの話はしなかった。日本の諦めない強さを誰も認めようとしなかった。
そして、私はただ静かに三列目の席に座っていた。私の先生は日本の戦い方を否定し続けた。第二次世界大戦は誰が勉強しても、大勢の人が命を奪われたおそろしい戦争だ。けれど、授業ではアメリカの視点一つからしかこの出来事を学習しなかった。私の国の過去が攻撃されている中、私はただ黙ったまま座っていた。本当は「え、これおかしくない？日本もアメリカのように、自分たちの国を守るために戦っていたよ。」と言いたかった。その日、私は「一つの話には必ず二つの視点がある。」の意味がよく理解できた。私はもう一つの視点をみんなに聞いて欲しかった。けれど、クラスメートや先生の反応を恐れて、何も言えなかった。

ここで、私はふと今までの学校生活で学習した事について考えた。教えられている事がらよりも、その教え方に私は注目したい。確かに、第二次世界大戦のような、アメリカの歴史においても大きな部分である物事は学習するべきだと思う。そして、過去に犯した間違いを学習すれば、未来でそういうひどい事が起きる可能性が低くなるかもしれない。けれど、世界大戦は名前が表すように、アメリカだけで起こった出来事ではない。世界の国を巻き込んだ戦争だった。だから、世界中の国からの視点をもっと考えるべきなのではないか。
誰かが気付かないうちに、アメリカの学校システムは一つの視点からしか歴史を教えないということに慣れきってしまったのではないのか。もちろん、これは私の学校だけかもしれない。そして、アメリカの学校システムだけではないのかもしれない。あの日の授業は私にとって、嫌な話題だった。でも、きっと、他の日の授業は他のクラスメートの誰かにとって、嫌な話題であったはずだ。この微妙な立場を経験した事がある人は私だけではないと思う。私の心は二つの国の間で分かれている。そして私の心は二つの国に繋がれている。けれど、他の人は何個の国にも心をつないでいるかもしれない。こういう人の人生では、一つ一つの話は一つや二つ、それよりも多い視点、があると思う。私は、自分の二つの国をどちらも同じように大事にしている。他の人にも大事にしてほしい。それは大きな願いかもしれない。けれど、私は大きな視点に立って考えないと、何も変わらないと思う。だから、私の二つの国よりも多くの視点から出来事を学習したい。

すべての視点から考えなければ、純粋な意見は得られないと私は信じている。たった一つの視点からしか見ない人は、その視点の意見が自分の意見だと考え込んでしまう。だから、私はみんなにちゃんと自分の意見を持ってほしい。クラスのみんなが本当の自分の意見を持ててこそ、やっと面白い会話になると思う。こういう会話こそが、未来を変えられる大人達を作る事が出来るのだ。私はこのような世界的な授業を受けたいが、今だと受けられない気がする。今の学び方では、私たちはアメリカという小さい世界に閉じ込められてしまう。けれど、私は世界を見たい。そして、世界的な経験をしたい。

私たちは「アメリカの生徒」ではなく、「世界の生徒」として学習するべきなのではないだろうか。

第25回作文コンクール入選者発表

W校	最優秀賞
高２年	前田　花帆
初６年	那須　咲代
初２年	田村　遼花
初２年	武田　昌泰
初１年	中村　晶
W校	**優秀賞**
高１年	岩佐　佳奈
中３年	押川　春香
中３年	デイビッド　キャロリン　美雨
中１年	是永　陸
中１年	上田　真愛
初４年	関口　怜花
初４年	是永　真凜
初４年	竹田　桃子
初３年	高橋　侑大
初２年	エルブリッシュ　里砂
初２年	那須　藍貴
初２年	阿知波　颯
W校	**入選**
中２年	加藤　和樹
初６年	シュワルツ　世音観
初５年	免出　七海
初５年	鳴瀧　優希
初４年	ウォーカー　美咲
初４年	渡邉　喜
初３年	河合　泰吾
初３年	藤本　怜花
初２年	中島　陽斗
初２年	南部　翔之進
初１年	山下　澄花
初１年	ウォーカー　ルーク　一輝
初１年	横式　美玲
初１年	青木　菜々美
初１年	鎌田　太進
初１年	古谷　祐太
W校	**佳作**
高２年	グレイ　ホープ　望
高１年	鹿内　颯太
中３年	清水　美緒
中２年	三井　大輝
中２年	クリーグ　イザベル
中１年	阿部　純子
中１年	パルミエリ　ケイシー
初６年	中村　凜
初６年	玉村　理紗
初６年	パルミエリ　リーアム
初６年	藤堂　直緒子
初５年	波多野　まなみ
初５年	鹿内　春伽
初５年	今堀　豪太
初５年	岸　皓介
初５年	粟野　莉子
初５年	大倉　怜
初５年	赤平　海斗
初５年	木村　京志郎
初４年	森　栞美
初４年	石川　新和
初４年	ビエム　シアナ　彩美
初４年	中村　開翔
初４年	的場　千奈
初４年	寺門　澪
初４年	山下　日有吾
初３年	西村　咲良
初３年	中原　未有羽
初３年	波多野　友哉
初３年	垣内　日菜子
初３年	井手　諒
初３年	ロドリッツ　亜門
初２年	内海　あやか
初２年	藤澤　仁菜

LI校	最優秀賞
中１年	モンターク　鈴音
初６年	豊田　夏稀
初１年	ドネリー　優希
LI校	**優秀賞**
高１年	北川　澪那
中１年	櫻井　えみり
初４年	藤田　修敬
初３年	マ　笑里
初３年	ブシェ　音里
初２年	阿部　大地
LI校	**入選**
中３年	中村　夢乃
中２年	山口　百音
初６年	猿見田　美星
初５年	福島　光
初５年	イスラス　ダニエル
初５年	市川　華
初２年	梅澤　はな
初１年	保坂　愛子
LI校	**佳作**
中３年	古庄　アカネ
中１年	滝澤　真佳
初６年	フシロ　タラ
初６年	高橋　杏
初６年	小林　瑛茉
初５年	ウォーリン　太郎
初５年	秋山　真夜
初５年	橋本　游羽
初４年	滝澤　佳和
初４年	尾下　紗穂
初４年	延原　伶
初４年	モンターク　未嵯
初３年	戸田　有紗
初３年	政岡　里奈
初３年	滝澤　知歩
初３年	牧野　遥
初２年	髙橋　ショーン　勇登
初２年	クワコウ　ますみ
初２年	ロー　瑛里花
初２年	槇原　尚紀
初１年	滝田　功二
初１年	クラーク　将人
初１年	横木　仁
初１年	平形　歌理奈

W校	佳作
初２年	大垣　慶介
初２年	高橋　信龍
初２年	デシアーノ　ソフィー
初２年	マーティン　美桜子
初２年	今堀　勇太
初２年	井手　彩夏
初２年	内野　美月
初２年	坂巻　友依
初２年	小杉　佐恵
初２年	富田　咲
初２年	地主　紗和
初２年	西巻　開
初１年	加賀　千天奈
初１年	秋吉　美祐
初１年	大庭　真弓
初１年	北出　翼
初１年	関口　万結
初１年	垣見　徳
初１年	中山　董矢
初１年	竹田　朋代
初１年	富井　駿介
初１年	下村　凜夏
初１年	鈴木　泰晴